



おひさま通信

VOL. 20

2019年10月1日発行

特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま（以下『おひさま』）は、1986年以来活動をすすめてきた『すぎの子共同保育所』の保育実践をベースに新しく地域の子育て支援センターとしての役割を担いたいと、2005年6月24日に設立・認証されたNPO法人です。2016年4月からは、徳島市の認可を受けた『木のいえ共同保育園』の運営主体として様々な活動をしています。

おひさま通信は、会員や地域の方々を結ぶ通信として、おひさまの諸行事の報告や、木のいえ共同保育園の子どもたちの様子などを掲載しています。

〒779-3125
徳島市田所町平瀬字中ヶ原218番6
Tel/Fax 088-642-5933
NPO HP <http://npo-ohisama.org/>

保育行事より

嬉しい♪嬉しい♪誕生会♪

毎月のお誕生会は、子どもたちにとって待ちに待った嬉しい日♪
ひとつ大きくなったことを、保育園中のお友達や大人達とお祝いします♪
子どもたちの喜びにあふれた様子を、9月のお誕生会からお伝えします。



手形クッキー



①自分の得意なことでの入場♪
5歳児は縄んだばかりの縄跳びで
4歳児は嬉しい風爽としたスキップで
自信たっぷりの表情です。



②お名前と、いくつになったかを
一人ずつ発表します。
そのあとは、大好きな仲間から
たくさんの質問をもらいます。
「好きな動物はなんですか？」
「きりんさんが好きです。」
ポツポツ（模様）が好き!!（2歳児）」



③大好きなお友達から
手形メダルをかけてもらって
お誕生日の歌でお祝い。
「おめでとう！」
大きな笑顔があふれます。

④今年は年長さんから、個別の手作り
メッセージカードもプレゼント♪
「大きくなったね。リズムのおうま
さんも上手になったね。また一緒に
お散歩に行こうね。」小さい仲間の
成長と一緒に喜びあいます。



⑤職員からのお祝い
のお楽しみ会の後は、
お待ちかねの
お誕生会のごちそう。
「うわぁ！なんだろう！
おさかなかな？かきあげ
のにおいがする〜！」
スタチにも興味深々。
鮭のホイル焼きと
炊き込みご飯・豆腐のお汁でした♪
おやつは、おはぎ♪



⑥給食室からは
手形クッキーの
プレゼント♪
ぎゅって押して
世界にひとつだけの
おいしいお祝い♪



自分の手形で作った
6歳のメダル♪
リボンは自分の
好きな色で
三つ編み

会員募集

共同子育て広場おひさまは、子育てが楽しくなる、子どもの
目がいきいきと輝く活動に取り組みます。
行事に参加できるできないに関わらず、おひさまを応援した
いという方など、入会をお待ちしております。（入会金なし）

【年会費】
★正会員：5,000円 ★賛助会員：一口1,000円

【会員特典】
☆総会決議権（正会員のみ） ☆おひさま通信配布
☆イベント割引

（例：園開放通常参加費大人300円⇒100円）

寄付のお願い

随時寄付をお受けしております。
【会費、寄付振込口座および振込名義】
※平成28年4月より振替口座の番号が変わりました。
郵便振替口座 01620-0-101329
口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま



講演会報告

小野寺真澄先生 性教育連続講座

小野寺真澄先生（“人間と性”教育研究協議会徳島サークル代表）を講師にお迎えし、2017年度は「幼児期からの性教育」を、2018年度は性についての連続講座を計3回開催しています。小野寺先生は長きに渡り中学校教諭として現場でも性教育の実践を積み重ねてこられました。性教育の第一人者としての深い考察に基づく講座は様々な角度から私たちに「性を学ぶことの大切さ」を教えてくださいました。講座と感想の一部をまとめました。

4月 「生活の中のジェンダー：衣・食・住」

ジェンダーとは、社会的・文化的に作り上げられた男女差のこと。当たり前のように生活していて普段意識していない中にたくさんのジェンダーがある。

「女らしく、男らしく」は命名から始まっており
女は⇒スカート、優しい、丁寧語、人形、従順⇒家事・育児
男は⇒ズボン、大食い、戦いごっこ、泣くな⇒仕事⇒戦争
と続いていく。個性(自分らしさ)をつぶし演じる人生

性の勉強は、“子どものために”
と始めるかもしれないが、自分が
まず解放されていくでしょう。それ
が生きるということ。

自分が生きやすくなることを行
動して、子どもやパートナーに伝
えてほしいのです。



1月 「恋と愛 ～テーマは性交～」

愛と恋は違う。恋は自分勝手な感情。失恋することもある。
自分のプライバシーの原点は性器。性交はそこを開放して相手と
特別な人間関係を持つこと。とっておきの行為。
望まない妊娠・性感染症は常に性交の危険点としてある。

＜素敵な性交をするための5つの条件＞

1. お互いに同意があること。（夫婦間でも同意なしが多い）
2. 中絶、性感染症に対して知識プラス予防する実行力。
3. お互いのプライバシーを守る。
4. お互いに快感がある。
5. トラブルを二人で話し合って解決できる力がある。

参加者感想から

今まで言われてきた「男らしさ、女らしさ」
はその先にある「仕事と家庭」という役割
を円滑にこなせるためだったと聞いて、と
ても納得しました。女性の社会進出が進
み、共働きが当たり前である今、「男らしさ
女らしさ」を教えるのは時代遅れにな
るのは必然だと思います。

性交がテーマの話と聞いてどん
な話をしてくださるのだろうと楽しみ
にしていた。性交という「行為」では
なく「関係性が大切だ」ということを
教えていただいた。それにはまず
夫婦関係から大切にしていかなけ
ればいけないと思った。

今まで生きてきて、ジェンダー
の鎧を着せられているのがよく
分かった。

子どもたちに、恋と愛、その先にある
性交をどう伝えるかイメージを描く
ことができました。

「女の子なのに」と小さい頃親に言われたし、
わが子にも服装や言葉遣いや態度を男女で区
別していたことに何の疑問も持っていなかつ
た。小野寺先生の講座を聞き、子どもが自分ら
しくいられるようにもっと勉強したい。

「人と質の高い関係性を築くためには時間がか
かるもの。性交は人間関係のひとつ。人間が人間
らしく生きていくためにも性教育を受けることは大
切。」小野寺先生のお話は何度聞いても気持ちよ
く「そうだ！そうだ！」と心で叫んでいます。

10月 「性被害とジェンダー」

性被害は
権力のあるもの→ないものへ
金力のあるもの→ないものへ
腕力のあるもの→ないものへ
何も持たない
子どもは
やられっぱなし
性犯罪は性欲以外の欲求不満が原因の大半。
一方的に加害者は、攻撃、支配、優越、男性性の誇示
等をするために性という手段を使う。
性犯罪にもジェンダーが密接に関係している。
加害者は知っている人からが88.8%。

＜性被害防止のために＞

- ①からだは自分のもの。自分で性器が洗えるよう
になったら自分で洗うように教える。
- ②性犯罪があるという現実を子どもに知らせる。
知っていることで防げることがある。

「加害者が悪い。被害者は悪くない。」

＜自分を守るために＞

- ・「イヤ」と言える
日本は「イヤ」と言うことが嫌われる社会だけど、
「イヤ」は自己主張。「イヤ」と言うことで人権を守
ることができる。
- ・逃げる
自分を守るためには逃げるのが大事。
「男のくせに逃げるな」ジェンダーにまみれた男子
は逃げるのが許されていない。
- ・話す
一人で抱え込まず信頼できる人に相談する。
話を聞いたときは **びっくりしない!**
「まさか」は絶対に言わない。話さなくなる。

きいて！きいて！みて！

～あふれんばかりの思いを絵に込めて語る～

乳幼児期の仲間との豊かな生活経験の中で、目で見て、耳で聞いて、鼻で匂って、舌で味わい、手や足を動かせ、外の世界に働きかけ、感性を豊かにしていく子どもたち。まわりの世界を自分の中にたくわえて、イメージやことばを自分のものにしていきます。その生活と表現をつなぐ描画。「おえかきたい！」「おはなしきいて！」と、思いがあふれます。保育士との対話を通して、イメージを表現する力と、ことばで伝える喜びを育てていきます。

3歳児クラス、子どもたちの絵にこめたおはなしを聴くひときは、「こんなところを見ているんだ」「こんなふう感じたんだ」と、発見や感動に触れることができ、絵だけではわからない子どもの内面に触れることができる大切な時間です。



↑「これなー、にひきのうなぎ。このこは、およくけん、なわとびせん。ほんでな、あゆがなわとびせんとな、みずから、いるかしよる(バシャーンって)ふたつかまえたけんな、ふたつかいた。」(3歳8ヶ月)



魚つかみの後は、お父さんがウナギとアユをさばいて見せてくれました。魚のおなかや骨、まだ動いている心臓にも興味深々。

この絵は、その前に描いた絵と話が繋がっています。直前に描いた絵は、「あんな、みずでな、なわとびしよる。うなぎが。だってな、あんなーおよげんけん。」とおはなししていました。魚つかみで、2匹つかまえられることがとても嬉しくて、後日もずっと「にひきつかまえた」と話していました。その経験がその後の生活や遊びの自信に繋がり、この大きな丸(魚)に託されています。2匹を2枚の紙に分けて、丁寧に描きました。

絵のおはなしには、憧れの5歳児がしている縄跳びという言葉も出てきました。ウナギの泳ぎもイメージしながら、自分がプールの時に楽しかった経験(イルカジャンプなど)をウナギと重ね合わせていました。

初めから「こんなことをおはなししよう」と描き、力をこめた両掌でしっかりと感じたウナギのヌルヌルした感触を、いくつもの線に託して、いっぱいおはなししていました。

「あのなー、ここはほしさん。これ、きょうちゃん。これはー、うなぎでー、これはあゆ。こっちはー、ちきゅうさん。これ、うなぎ。これはーにじさん。ひなた。これがあゆ。これは、ぶーるの、したのぼう。(周りにたくさんある丸)」(4歳0か月)↓



“カニプールでは、虹組(1歳児)が魚つかみをしていたな～” “地球さん(5歳児)は、サッと捕まえよったな～”と、1歳児や5歳児のプールもしっかりと描きこんでいました。

足のトンネルを何度も泳ぐウナギ。つかまえるのは少しこわいけれど、大人がつかまえたアユを自分から触ろうと何度もチャレンジします。自分ではつかまえることはできなかったけれど、仲間が「みてー」と嬉しそうにつかまえていた姿を描きました。

“おともだちのようになりたい”と願う大きくなりたい気持ちは、自分のクラスだけでなく、他のクラスにも目が向かいます。



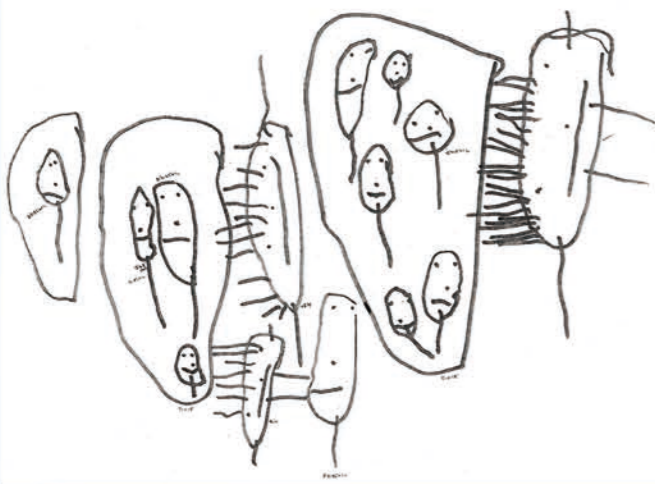
↑「さかな、つかまえよるとこ。このこ、はやい。あ、みよるひともかこう。こっちもおる。こころのままとかおる。」(4歳1ヶ月)



アユとウナギの大きさの違いや尾びれの違いもよく絵に表れています。ヌルッと滑って何度も逃げる魚。顔からは長い線がのびています。その線は、手の表現というよりも“獲ったよ”という行動の表現です。逃げないように両手でぎゅっつかまえたところを丁寧に表しています。周りにいた保護者から「すごい！」「がんばれ！」という大声援ををかけてもらったことも、あたたかく心を動かしたようで、「みよるひともかこう」と、周りにたくさんのお顔も描いていました。

夏 中楽しんだプールに、夏の終わりにアユとウナギを放してみんなで魚つかみを楽しむ行事をしています。子どもたちは、「あと〇かいねたら、さかなつかみ～」と、とても楽しみにし、「あした、はれますように」と、みんなでてるてるぼうずやおひさまを作ってお願いをしました。当日はあいにくの天気で、室内にプールを持ち込んでの開催でしたが、いつもよりも仲間の笑顔も大人の声援も近く、1歳児～5歳児までがアユやウナギと一緒に元気に泳ぎ、その躍動感あふれる命を肌でもしっかりと感じていました。後日描いた絵には、ひとりひとりの伝えたい思いがいっぱいあふれていました。

3歳児



「おたまじゃくしつかまえよん。みんなでさっさいったところ。むこうがわ。かえるおったところ。およんぎよった。ちかいところ。ちょっとちかいところ。おたまじゃくしはみんながつかまえよった。ちきゅうさんのたんぼに、にがした。」(4歳3ヶ月)

初 夏の小さな生き物や自然を探しに、園の周りをお散歩した日の絵です。田んぼいっぱいにおたまじゃくしを発見し、その喜びから、お友達とおたまじゃくしが、画面いっぱい描かれています。「あっ！あっちににげたよ！つかまえて！」「はやくて、つかまえれん！」「こっちは、あしはえてきたな～」「まだ、あかちゃんやな～」と、仲間と言葉を交わしながら、追いかけてつかまえたり、じっくり観察したりして、ふれあいを楽しみました。

4歳児になると、出来事への興味関心が広がります。内容も豊かになって画面にはいろいろな形が登場し、表現するようになってきます。

この子は、自分のマークでもあるカエルが、もともと大好きな生き物で、普段からカエルをつかまえたり、小さい頃(おたまじゃくし)には足(しっぽ)が1本しかないこともよく知っていて「あかちゃんかえるは、あし1ばん♪」「いっぱいおったよな～」と仲間とおはなししながら楽しそうに描いていました。

4歳児

5歳児



「あのな、あわおどりかいかんいった。あわおどりかいかんであわおどりおわるとき、みんなであわおどりしよんかいた。たのしかった。あのな、おとがきれかったけんたのしかった。(てが)ちょっとむずかしかった。さんかくとかならんだり、ばらばらのかたちになっとった。」(5歳5ヶ月)

今 年の運動会の年長親子演技では、大好きな阿波踊りに取り組む事になり、仲間と保護者と一緒に阿波踊りを観に行き会場でみんなで踊った場面を描きました。

しなやかな手の動きが難しかったようで、目の前の踊り子の一本一本の指先まで意識して必死で真似たそうで、この絵をきっかけに1本の線のみで表現されていた腕から、5本の指が表れてきました。「あかちゃんゆびだしたりしよった。なかゆびとかうえにやして、ほんでな、こやってな…」と身振りを交え、感動を語りながら踊っています。感動をもって意識した5本の指が大きく描かれています。5歳を過ぎると、羅列的な表現の時期を超え、全面に構図をつくり、イメージをまとめあげて、表現する力を獲得していきます。

